

なにわの元プロ野球選手④

元近鉄バファローズ 兼光保明さん (55)

引退したプロ野球選手の第二の人生は様々だが、「ケーキ屋さん」となる
とちよつと珍しい。1976年から83年まで近鉄バファローズ（現在のオ
リックス・バファローズ）で主に外野手だった兼光保明さん（55）は現在、
大阪市平野区でケーキ店「ケナリー」のオーナー・パティシエとして腕をふ
る。現役時代は一軍で1本のヒットも打てなかったが、新天地では「ピ
ット商品」を連発している。

フリーライター・吉岡雅史



パティシエ・兼光さんは「ショーケース全体を一つの作品にしたい」と語る

パティシエで成功 でも、帰る場所は 米大`キャンプ、

色も形もとりどりのケーキがショー
ケースに並ぶ。平日の昼下がりがながら、
女性グループや家族連れがひっきりな
しに店を訪れてくる。

「常時30種類前後は出すようにして
います。1シーズンに二つ三つは新し
いのを加えて。きょうのお薦めは桃の
ケーキ。野球選手らしく、ドーム型の
ケーキも作りましたよ」

兼光さんが今の店を構えて、今秋で
丸9年。元プロ野球選手というより、
現役バリバリのパティシエとして紹介
したほうがいいのかもわからない。
意外なのは、パティシエの本格的な
修業もなしに開店したことだ。引退後、
10年間外食チェーンに勤めたあと、友
人と起業。洋菓子の製造・販売業だっ
たこともあり、40歳をすぎてから一念
発起して東大阪に最初の店を開き、や
がて平野に落ち着いた。

「サフリーマン時代は上場企業でそこ
そのポジションまで行ったんですよ。
でも、人生の先が見えてしまったとい
うか…。元々器用だったこともあった
し、店を持つてからの修業でした」
こうした大胆さは、勝負の世界を経
験した者ならではの。旧知のパテ
イシエだけでなく、雇っている職人か
らも技術を教わりながら、道を軌道に
乗せた。「とにかくシンプルに。そして
きれいなケーキじゃなくて、おいしそ
うなケーキを作りたい。見ただけで味
が想像できるような」と基本にこだわ
る口調は、野球に通じるものがある。

小松、落合、そして西本監督 プロ8年間の思いは尽きない

兼光さんは岡山・倉敷工業のエース
として75年の選抜大会に出場。開幕ゲ



近鉄時代の兼光さん

は「ポジションを取るまで必死に」と
したためだ。「長い人生、あきらめず
に、といつか（でしよう）。恩師の立
ち居振る舞いと言葉を、ずっと生かし
てきた。

米・マイナー・リーグとの戦いが 第2の人生へのきっかけに

中でも忘れられないのが、80年秋のア
メリカ・フロリダ州での教育リーグだ。
当時は複数の球団で選手を派遣する習
慣があり、在阪球団主体の混成チーム
がマイナー・リーグと戦った。約1カ月
の間に30試合以上をこなす過密日程で、
日本チームは6試合しか勝てなかった。
アメリカの若手投手には160キロ
近い剛球を投げるサウスローがいた。
「あんな速い球は、後にも先にも見たこ

とがない。小松がいくら速いといつて
も150キロそこそこだった」と兼光
さんは衝撃を受けた。同時に、本場ア
メリカの野球と、それを取り巻くアメ
リカ社会に感銘を受けた。そして「本
物を目の当たりにしたことで、かえっ
て踏ん切りがついた」と、第2の人生
を本気で考えるきっかけとなった。
ちなみに160キロをビュンビュン
投げていたのは、のちにヤンキースに
昇格し、先発でノーヒット・ノーラン、
リリーフに転向するとセーブ王に輝い
たデーブ・リゲッティ。球史に名を
残す大投手だ。

できる限り早く、家族に ユニフォーム姿を見せたくて

引退から30年近く経つても、この

教育リーグ派遣は兼光さんに、大きな
影響を与えている。

「やっぱり野球人ですから、帰る
場所はこなんですよ」と、ひととき
わたくし語るテーマがある。アメリカ
には、ファンタジー・キャンプとい
って、メジャー・リーグと同じ施設
同じユニフォームで、一般人が現役
コーチやOBから指導受けられるイ
ベントがある。かつては全球団が、
今でも多数の球団が主に、春季キャ
ンプが始まる直前に1週間から10日
程度行っている。そこへの参加を、
数年来夢見てきた。もう一度、アメ
リカで野球をするのが、大きな目標
なのだ。

ただ、ファンサービスの企画とはい
え、参加するのは結構難しい。短期間
とはいえ練習漬けの日々に耐えきれ

るか、チーム競技であるからにはコミ
ュニケーションも大事である。外国人
である日本人が準備すべきことは山
ほどある。

2人の娘は、父親の現役時代を知
らない。長女は結婚が決まり、次女は
この秋からアメリカの大学院へ進学
する。「本当は、4人家族のうちに実
現したかった。今はできる限り早いう
ちに、プロのユニフォームを着て実際
にプレーしている姿を見せてやりた
くっこと。

日本の元プロが、本場の遊びのキャ
ンプを真剣に目指す。子どももころ、
無邪気に一心不乱にボールを追った。
野球の原風景が浮かんでくるようだ。
近鉄の帽子をかぶり、長居公園をラン
ニングしている体格のいい男性を見か
けたら、それはきっと兼光さんだっつ。

文化論 いなみせいじのヨコシロ

